

LE CHOIX GONCOURT  
DU JAPON



# 第二回 ゴンクール賞日本 2023

日本の学生が選ぶゴンクール賞

フランス文学の新たな声

# 目次

## SOMMAIRE

p.2

ゴンクール賞について知る

**Le Prix Goncourt**

p.4

これまでの受賞作を読んでもみよう

**Le Prix Goncourt, d'hier à aujourd'hui**

p.6

ゴンクール賞日本とは？

**Le Choix Goncourt du Japon**

p.8

日本の選考体制

**La Sélection du Japon**

# はじめに

## INTRODUCTION

文学賞の役割は作品の真価を見極め、顕彰することですが、ゴンクール賞日本は、日仏の文化交流において、独自の役割を担っています。それは、この賞によって、学生のみなさんにフランス文学の多様な側面に親しんでいただくとともに、現代の社会をさまざまに描く同時代の作家たちの声を多くの読者の方々に届けることです。

ゴンクール賞日本は、毎年行われる文学賞がもたらす議論や反響を届けるにとどまらず、中小から大手まであらゆる出版社に、日本では知られる機会の少ないフランスの現代作家たちを出版していただく機会でもあります。というのも、受賞作は、アンスティチュ・フランセの助成を得て、日本語に訳され、出版されるからです。同時代の文学作品に特化することで、21世紀におけるフランス語の位置を見直すとともに、明日の日仏文学界の架け橋になることをめざします。

ゴンクール賞日本委員会

**Si les prix littéraires ont pour rôle de reconnaître et récompenser la qualité d'une œuvre littéraire, le Choix Goncourt du Japon nous semble avoir également un rôle à tenir dans les échanges culturels franco-japonais. Ce prix permet à de nombreux étudiants de découvrir divers aspects de la littérature française et de faire entendre plus largement les voix d'auteurs contemporains qui évoquent chacun à leur manière quelque chose de la société d'aujourd'hui.**

**Au-delà des débats et de l'écho que fait naître un prix remis annuellement, le Choix Goncourt du Japon se veut aussi une incitation, auprès de tous les éditeurs, grands ou petits, à s'engager dans la publication d'auteurs français ou d'expression française parfois encore peu connus au Japon. Le Choix Goncourt du Japon ambitionne de contribuer à redéfinir ce qu'est la langue française au XXI<sup>e</sup> siècle en se concentrant sur la création contemporaine et devenir une importante composante du champ littéraire franco-japonais de demain.**

**Le Comité de Direction du Choix Goncourt du Japon**

# ゴンクール賞について知る

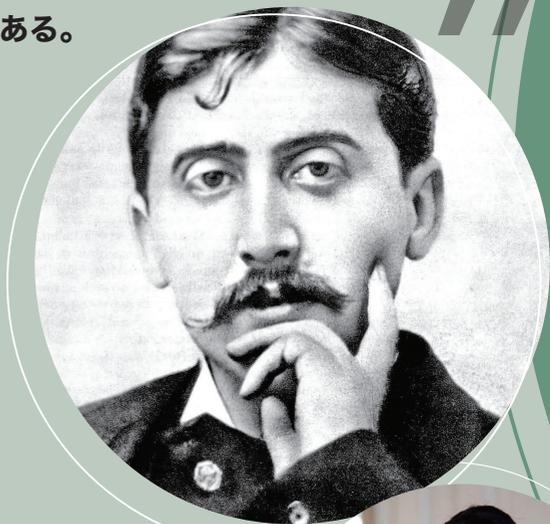
# Le Prix Goncourt

プルースト、マルロー、ボーヴォワール、ガリ、  
マンディアルグ、トゥルニエ、モディアノ、デュラス、  
シャモワゾー、キニャール、ンディアイ、ウエルベック……

問題：ここに名前を挙げた作家たちの共通点は？

答え：全員ゴンクール賞の受賞者である。

ゴンクール賞の歴史は長く、2023年で120年を迎える。作家エドモン・ド・ゴンクール（1822-96）の遺志に基づいて設立された賞は「その年に刊行されたフランス語による最良の文学作品（ただし散文に限る）」に与えられる。規定上、短編集やエッセーも排除されていない。受賞者の国籍もフランスに限定されず、新人のみを対象とするものでもない。こうした緩やかな規定によって賞は硬直化をまぬがれ、冒頭に挙げたような多彩な作家を受賞者としてきた。毎年11月の受賞作の発表は一大イベントであり、栄冠を得た作品は数十万部が売れ、たちまち各国語に翻訳されるのだ。



マルセル・プルースト  
(1895年)



マリー・ンディアイ  
(第一回ゴンクール賞日本の後見人)

“

私と弟が、  
文学者として生きるなかで、  
ずっと設立を考えていた文学協会

ゴンクール賞の創設者  
エドモン・ド・ゴンクールの遺言  
(1884年11月16日付)

”



ゴンクール賞を選考するのは10人の「アカデミー・ゴンクール」会員だ。ゴンクールが遺言で指名した文学者たちから始まり、終身制を原則とし、欠員を補充しながら今日に至っている。10人がパリ市内のレストランに集まり、投票で受賞作を決定するというゴンクール賞の枠組みは1903年の第1回選考から変わっていない。1人1票、候補作のいずれかが過半数の票を得るまで投票が繰り返される。1度の投票で決まることもあるが、2022年は14回投票を繰り返しても票が割れ、「拮抗した場合には議長の票が2票として数えられる」というルールによってようやく受賞作が決まった。

ゴンクール賞は新人賞ではないため、キャリアの長い作家が受賞することも少なくない。最高齢の記録はデュラスで、高名な作家は当時70歳だった。20代、30代の受賞は比較的に稀だが、それだけに2021年のゴンクール賞は鮮烈な印象を与えた。直近2年間60代のベテラン作家の受賞が続いていたところに、セネガル出身の31歳の作家が一躍脚光を浴びたのだ。いまなにか、文学史の大きな瞬間に立ち会っているという高揚感の共有、これもまたゴンクール賞の醍醐味と言えるだろう。

九州大学 倉方健作



ゴンクール賞が決まるパリ2区のレストラン、ドルーアン  
(写真:アントワヌ・ウェスターマン)

# これまでの受賞作を読んでみよう

Le Prix Goncourt, d'hier à aujourd'hui



## TEXACO

テキサコ (上) (下)

PATRICK CHAMOISEAU  
パトリック・シャモワーズ  
星埜守之 訳  
1997 平凡社



© PATRICE COPPEE / AFP

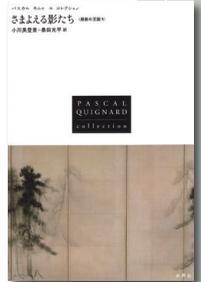
1992



## LES OMBRES ERRANTES

パスカル・キニャール・コレクション  
さまよえる影たち [最後の王国 1]

PASCAL QUIGNARD  
パスカル・キニャール  
小川美登里、桑田光平 訳  
2017 水声社



2002



## LES BIENVEILLANTES

慈しみの女神たち (上) (下)

JONATHAN LITTELL  
ジョナサン・リテル  
菅野昭正、星埜守之、  
篠田勝英、有田英也 訳  
2006 集英社



©F. Mantovani/Gallimard

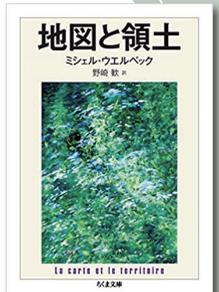
2006



## LA CARTE ET LE TERRITOIRE

地図と領土

MICHEL HOUELLEBECQ  
ミシェル ウエルベック  
野崎 歓 訳  
2015 ちくま文庫



2010



## L'ORDRE DU JOUR

その日の予定 -  
事実にもとづく物語

ERIC VUILLARD  
エリック・ヴュイヤール

塚原史 訳  
2020 岩波書店



© Jean-Luc Bertini

2017

## TOUS LES HOMMES N'HABITENT PAS LE MONDE DE LA MÊME FAÇON

すべての人が同じやり方で  
この世を渡っているわけではない

JEAN-PAUL DUBOIS  
ジャン＝ポール・デュボワ

藤本優子 訳  
2023 早川書房 刊行予定



PRIX GONCOURT 2019

LIVRÉ PAR  
JACQUES GAMBLIN

LIZARD

2019



© Lee Dongsub



## L'ANOMALIE

異常【アノマリー】

HERVE LE TELLIER  
エルヴェル・テリエ

加藤かおり 訳  
2022 早川書房

2020



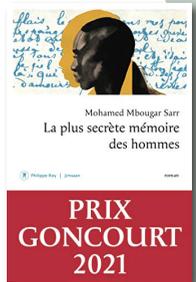
@OliviaSnajje

## LA PLUS SECRÈTE MÉMOIRE DES HOMMES

人間の最奥に秘められた記憶

MOHAMED MBOUGAR SARR  
モハメド・ブガル・サール

2024 翻訳版 刊行予定



Mohamed Mbougar Sarr  
La plus secrète mémoire  
des hommes

© Philippe Rey | J'ai lu

PRIX  
GONCOURT  
2021

2021



## VIVRE VITE

生き急いで

BRIGITTE GIRAUD  
ブリジット・ジロー

加藤かおり 訳  
2024 早川書房 刊行予定

2022



© Francesca\_Mantovani

# ゴンクール賞日本

## 日本の学生が選ぶゴンクール賞

Deuxième édition du Choix Goncourt du Japon 2023

ゴンクール賞には本賞のほか外国版として、各国の大学生が選ぶ Les Choix Goncourt internationaux があり、日本も 2022 年より参加しています。全世界で 35 カ国が参加する催しで、国によっても選考方法に違いはあるものの、ゴンクール・アカデミーがあらかじめ選考した作品を各国の学生がフランス語で読み、自分たちの気に入った作品を選びます。日本では全国を 5 つの地区ブロックに分け、それぞれの地域ごとに審査を行い、地区の代表者によるディベートを経て受賞作を決定します。受賞作は翻訳出版される予定ですので、ぜひご期待ください。

第二回ゴンクール賞日本  
日本側後見人

平野啓一郎 作家



撮影 瀧本幹也

私は、十代の頃から  
文学作品の読者になりましたが、  
特にフローベール、ボードレール、  
ランボー、モーリヤック、……といった  
十九世紀から二十世紀前半の  
フランス文学には大きな影響を受けました。  
勿論、現代作家の作品も愛読しています。  
創作で大事なことは、本当に切実に自分にとって  
重要な主題を扱っているか、  
ということだと思います。  
ゴンクール賞の候補作を原語で読むというのは、  
素晴らしい試みで、驚嘆しつつ、応援しています。  
頑張ってください。

平野啓一郎

第一回ゴンクール賞日本の受賞作家  
第二回ゴンクール賞日本の後見人

クララ・デュボン＝モノ作家



© Olivier Roller



松本百合子訳  
早川書房より  
2023年3月刊行

フランスの地方に暮らす幸せな一家。ある日、第三子が重い障がいを抱えていることが分かった。長男はかいがいしく第三子の世話に明け暮れるが、長女は彼の存在に徹底的に反発する。障がいのある子どもが誕生した家庭の心の変化を、静謐な筆致で描く感動長篇。

## 澤田 直先生 (ゴンクール賞日本委員会) の言葉

日本の学生がフランス語の原書で作品を受賞作を選ぶという「ゴンクール賞日本」の冒険は、一本のメールから始まった。2020年11月21日、フランスの友人からちょっと相談がある、Zoomで話さない？ というメールが来た。ニューヨーク大学で教えている彼は、「国際ゴンクール賞」をアメリカで立ち上げたんだけど、日本でもやってみては？ というのだ。高校生が自分たちの基準で受賞作を選ぶ「高校生のゴンクール賞」があることは知っていた。選ばれる作品の質も高く、しばしば邦訳もされている。その外国版、世界の大学生が選ぶ「国際ゴンクール賞 (Les Choix Goncourt internationaux)」、こちらは不勉強で知らなかった。参加国は35か国、欧米が中心だが、中国やインド

というフランコフォニーとは縁遠いと思われる国も名を連ねている。アカデミー・ゴンクールがノミネートした作品を複数の拠点大学の学生が読んで選考するという。

話を聞いた最初のリアクションは、日本では難しいなあ、だった。フランス語をすらすらと読める学生は、仏文学科にだって数えるほどしかいない。夢物語だよ、と答えたものの、周囲の友人たちに話してみると、反応は完全に二極化。「無理でしょ！ ありえない」という当然の反応の一方で、「えっ、すごいね、面白いじゃない」、「フランスでも権威あるゴンクール賞を自分たちで選ぶなんて、学生たちにとって一生の宝物になる」、「やるなら喜んで協力します」という心強い反応もあった。概要を知るためにアカデミー・ゴンクールの委員である作家カミーユ・ロランスさんに尋ねてみると、各国で自由に運用できるとの回答を得た。読む作品数も国によって違うようだ。それなら、できるかも、ということ、北海道・東北、関東、中部、関

西、西日本の5つの地区にわけ、それぞれサポートの教員がつく体制ができあがり、9月末に始動した。高校生から大学院生まで100名ほどの学生が応募してくれたのも心強かった。選考方法は、10月にアカデミー・ゴンクールが発表する第二次選考作品8作から、学生選考委員たちが紹介文を参考にして4作を選ぶ。続いて、それをフランス語で読み、毎週1回あるいは隔週のペースで集まって感想や意見を交わすミーティングを行なう。中心は大学院生などのチームリーダーで、教員はサポートに徹する。見知らぬ同士が集まって議論などできるのかという心配もあったが、それは杞憂に終わった。そして、3月末に地区のリーダーが東京に集まって選考委員会を開き、日本語に翻訳される受賞作を決定する、という流れ。第二回となる今年度も熱い議論が続いている。

澤田直

## 日本の選考体制

# La Sélection du Japon

第二回目となる今年もまた、多くの先生方と学生選考委員が10月から3月まで選考に携わりました。バリのゴンクール賞がノミネートした8つの候補作から4作品を選び、教員の指導のもとで学生選考委員は原書を読み、考えを巡らし議論し、翻訳もしました。ゴンクール賞日本の受賞作は、3月29日午前の東京日仏学院での最終選考会を経て、午後に表示されます。年間を通して、教員と学生選考委員の討議を深めるため、ワークショップや対談が開催されました。

### 組織委員会

澤田直（立教大学、日仏会館）、ミカエル・フェリエ（中央大学）、コリーヌ・カントタン（フランス著作権事務所）、シャルランリ・ブローソー（フランス大使館文化参事官）、クロエ・ベクリオー（アンスティチュ・フランセ日本本部）

### 地区組織委員長

北海道・東北地区：深井陽介（東北大学）／関東地区：國枝孝弘（慶應義塾大学）／中部地区：加藤靖恵（名古屋大学）／関西地区：久保昭博（関西学院大学）／中国・四国・九州地区：倉方健作（九州大学）

### アドバイザー

小倉孝誠（慶應義塾大学、SJLLF）、西山教行（京都大学、SJDF）、塩塚秀一郎（東京大学、SJLLF）野崎歓（放送大学）、西澤文昭（APEF）、深川聡子（APEF）

今年は、  
**50**名  
以上の学生が  
参加しました。



第一回ゴンクール賞日本の授賞式  
フランス大使公邸

### 運営委員

石井咲 (和光国際高校)、井上櫻子 (應義塾大学)、岩津航 (金沢大学)、小川美登里 (筑波大学)、小黒昌文 (駒澤大学)、笠間直穂子 (國學院大学)、木内堯 (名古屋外国語大学)、齋藤山人 (日本大学)、佐々木匠 (早稲田大学)、篠原学 (大阪大学)、陣野俊史 (立教大学)、杉原賢彦 (目白大学)、鈴木雅生 (学習院大学)、関未玲 (立教大学)、中野芳彦 (慶應義塾大学)、中畑寛之 (神戸大学)、畠山達 (明治学院大学)、平光文乃 (大阪大学)、福田美雪 (青山学院大学)、星埜守之 (東京大学)、村石麻子 (福岡大学) 宮川朗子 (広島大学)、山上浩嗣 (大阪大学) エリック・アヴォカ (大阪大学)、マリ＝ノエル・ボーヴィウ (明治学院大学)、クロエ・ベレック (東北大学)、ヴァンサン・ブランクール (慶應義塾大学)、ジャック・レヴィ (明治学院大学)、クロエ・ヴィアット (順天堂大学)

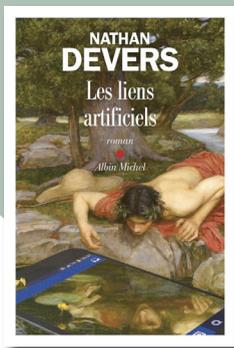
### 事務局

黒木秀房 (立教大学)、山田仁 (アシェット・ジャポン)、  
アンスティチュ・フランセ日本本部

# 作り物の絆 / Les liens artificiels

ナタン・ドゥヴェール / NATHAN DEVERS

Albin Michel 2022



© Pascal Ito

2022年11月7日、28歳のジュリアン・リベラはFacebookで自宅の窓から身を投げる様子を中継して命を断った。物語はその半年前に遡る。ジュリアンはパリ郊外のランジスに住み、バーでのピアノ演奏や「宅配ピアノ教師」で生計を立てていた。30年前に死んだ歌手セルジュ・ゲンスブールに憧れて楽曲を制作しているがうまくいかない。5年間付き合った恋人とも別れ、動画を見て無為に過ごしていたとき、ヘヴン社が提供するメタバース「アンチモンド」を偶然見つけてのめり込む。ジュリアンのアバター「ヴァンジェル」は、ヘヴン社の創業者アドリアン・ステルネールの意図も絡み、一夜にして現実世界にまで影響力を持つ有名詩人となる。だが「アンチモンド」はユーザーに厳格な匿名性を要求しているため、ジュリアン自身の生活はさして変化せず、今日もランジスからメタバースへのアクセスを続ける…

『作り物の絆』は、現代的なメタバースを対象に、宗教や哲学に通じる問題をまとわせながら、けっして難解ではない文体で物語を描き出している。著者のナタン・ドゥヴェールは1997年生まれ。エコール・ノルマル・シュペリユール（高等師範学校）に入学し、大学教授資格（哲学）を取得している。3作目の小説となる『作り物の絆』はゴンクール賞のほか「ルノードー賞」、「高校生が選ぶゴンクール賞」の候補作になり、中東の学生が選考する「オリエントのゴンクール賞」を受賞した。

九州大学 倉方健作

自分自身でいるだって？  
そんな馬鹿げた自惚れなんか一度も持ったことはない。  
その点で現代のシラノに  
ふさわしいこの俺は、  
そこでの泳ぎ方も知らないまま、  
自分の水鏡に溺れているのさ

”

楽園の概念は人間に、  
宗教の誕生時に根付かされた。  
潜伏期間の終わりに  
はっきりと現れる病気のように、  
それは長きにわたり、  
具体的な現象になる前に  
注ぎ込まれていた：  
人工的に作られた関係の、  
サイバー空間のネットワーク。  
そしてアドリアン彼自身が、  
元カトリック教徒で  
将来の起業家である彼こそが、  
この目の眩むような存在の生きる  
化身だったのだろうか？

# 生き急いで / Vivre vite

ブリジット・ジロー / BRIGITTE GIRAUD

Flammarion 2022

松本百合子訳 早川書房より 2024 年上半期刊行



© Pascal Ito



“ 今日とうとう家売った。  
家というのは夫ロードと  
20 年前に購入して、彼がついぞ  
住むことのなかった家のことである。  
事故のせいで、自分のものですらない  
バイクで加速し転倒死した  
あの日のせいで。  
ルー・リードの歌詞  
「生き急いで、早死にして」に  
触発されたかのように。

“ “  
家を売る「魂を売る」＝  
物語の終わりから始まる

“ “  
20 年が経ち、  
私の記憶には穴ができています。  
あなたを失うこともある。  
思いもかけなかったことだが、  
あなたを思い出すために集中し、  
あなたの視線をつかまえるために  
特別なシーンを  
思い浮かべねばならないこともある。  
私はまた、あなたが最後の瞬間に  
「だいじょうぶか Ça va?」と  
尋ねたときの抑揚を大事にしていた。  
あなたは重々しく、  
そして少しかすれた声で、  
不安などないと確認するかのよう  
に、  
ただ一言「だいじょうぶか」と  
言ったのだ。

本作は、作者が夫のバイク事故死を受容する過程で書かれた自伝的小説。愛の巣になるはずだった死の直前に買ったマイホームをいざ売却する段になって、20 年経った今ふたたび、自責と後悔の無限ループにけりをつけ新しい人生を踏み出すべく、あの出来事に立ち返る。全 23 章が「もし～だったら（彼は死んでいなかったのに）」と条件法過去で反実仮想を積み重ね、彼が今なお生きていた可能性を風漬しに検証してゆく。日常の些細な出来事が途方もない悲劇を招きうる——カオス理論かパスカルの名言を思わせる小説技法が、不可抗力を受け容れる心のレッスンを後押しする。

ニルヴァーナやオアシスなど 90 年代ロックを代表する名前が作品全体を彩り、ユーロへの移行、不動産投資バブル、インターネットや携帯電話など情報通信メディアの革新、イクメン的な新しい父親像など、ひとつの時代の肖像が浮かび上がってくる。そしてグローバリゼーションが加速度的に進む現代の資本主義社会への煮え切らない批判が垣間見える。そこに見るべきは、決してブルジョワ似非左翼の欺瞞ではなく、欲望に踊らされ時代に翻弄される、我々ごく凡庸でか弱き市井の人々を救い出すペースと達観ではないだろうか。

小説の最後、そうであったかもしれない可能世界をすべて書き尽くし、書き換えられない過去を受け容れるとき、恩寵のようにある心象風景が立ち顕れる。喪が明けても永遠に残る、忘れえぬ思い出と夫の何気ない一瞬の画。それが何だったかは読者諸氏自身がエピソードを読んで確かめてほしい。

福岡大学 村石麻子

# 姉妹のように / Les Presque Sœurs

クロエ・コルマン / CLOÉ KORMAN

Seuil 2022

Cloé Korman  
Les Presque Sœurs

ROMAN

Certaines histoires sont  
comme des forêts, le but  
est d'en sortir.

ROMAN Seuil



© Benedicte Roscot

原題の「ほとんど姉妹」は、作家の父親の従姉にあたるコルマン姉妹と、途中まで命運を共にしたカミンスキ姉妹という、第二次大戦期の6人のユダヤ人少女たちを指す。彼女たちはオルレアン近郊のモンタルジで検挙され、ポーヌ・ラ・ロランド収容所から、在仏ユダヤ人総連合が運営するバリとその郊外の施設へと移される。語り手は現地へ赴き、各地の現在の姿や、その場にいる人々との会話を書き込む。そうすることで、2020年代に1940年代の出来事を再現することの困難とともに、時を隔ててなお残るものを共有しようとする。

文体は簡潔で、感傷的ではない。少女たちの会話を想像して再現したりはせず、あくまで資料や証言からの推測にとどめる。とはいえ、監視カメラを当時の建物に据えた空想的な描写や、戦後に教師となったカミンスキ家の長女が、収容所で有名なドランシー地区の学校へ配属されたことへの言及など、ユーモアや皮肉が随所に効いている。

読者は早い段階で、コルマン家の3姉妹がアウシュヴィッツで殺され、カミンスキ姉妹は生き延びたことを知る。当然のことながら、生存者に関する情報は多く、彼女たちと別れてからのコルマン姉妹の情報はごくわずかだ。著者がより詳しく知りたいはずのコルマン姉妹についての情報不足が、そのまま歴史の忘却を浮き彫りにする。彼女たちはどんな最期を迎えたのか。それが謎のままであることの痛ましさをこそが、この小説の主題であると言えるだろう。

金沢大学 岩津航

“

この葉書はまるで鏡の裏側から来たみたいだ。というのも、わたしの祖父とリゾラは、ルイス・キャロルの『鏡の国のアリス』みたいに、そっくりだから。わたしと姉もそっくりで、鏡を見ていて、彼女を自分と見間違えたことさえある。

“

わたしはある秋の日、彼らが最初にモンタルジで住んでいたカンテーン通りの庭付きの家を見に行き、それから彼らが検挙されたアドルフ・コシュリー通り51番地に着く。2019年10月9日に録音したのたぶん同じ鳥の声を聞く。その鳴き声は、まるで目に見えない線が、別の身体の深みのうちに糸のように繰り出され、思いがけない空間と時間の次元へと伸びていくようだ。

”

# 嘘つき少女 / La petite menteuse

パスカル・ロベール＝ディアール / PASCALE ROBERT-DIARD

L'Iconoclaste 2022

伊禮規と美訳 早川書房より 2024 年下半年刊行



“  
ですから、「マドモワゼル、  
いつあなたのことを信じればよいのですか？」  
という質問に対する答えを、  
あなたがたはすでにお持ちなのです。  
手紙を書きながら、リザは単に  
提訴を撤回しただけではなく、  
彼女が手にしていた犠牲者という  
地位も手放しました。  
それにはたいへんな勇気が必要で  
あったことを、一体誰が  
否定できるでしょうか。

“  
あなたがたの目に映った  
リザの姿は、もしかしたら  
横柄にみえたかもしれません。  
しかし、彼女は苦しみ抜き、  
さらには怒りを抱いても  
いました。

勇気を出して提出した  
撤回の手紙が法廷で読まれた後に  
リザが私に言った言葉は  
「私、なんだかみんなに  
迷惑かけたみたい」でした。  
たしかに、彼女は目障りな  
存在かもしれません。  
実際、彼女の行いはいつも  
悪い結果を導きました。  
でも、いまや彼女には  
嘘をつく権利すらないのです”  
アリスの弁論は終わりに近づいていた。

ある日、弁護士アリス・ケリドルーをリザという 20 歳の娘が訪ねてくる。彼女は 5 年前のレイプ事件の被害者だが、犯人の不服申し立てで再審訴訟が受理されたのだ。前任者を解任してまでリザがアリスに弁護を依頼するわけは、彼女が人知れず悩んできた秘密があった・・

『嘘つき少女』という本書タイトルは、ずばりリザを指している。だが、このタイトルを額面通りに受け取ることはできない。なぜならリザのついた嘘は、判決を左右する重要証言に関わるとはいえ、主体的になされた行為ではないからだ。リザは無実の男を犯人にしたことを悔んでいた。再審訴訟でみずからの意見を翻すとなれば、彼女自身の人生をも危険に晒しかねない。リザの弁護を引き受けたアリスは、五年前の裁判記録を丁寧に読み直す。そこから見えてきたのは、「リザの嘘」が彼女の生い立ちや交友関係、そしてなにより周囲の大人たちの善意によって作られたという事実である。裁判に関わる専門家すら無意識にその嘘に加担し、冤罪を招いてしまった・・

作者は権威ある『ル・モンド』紙のベテラン社会記者。これまで多くの有名事件を見聞した彼女が小説のテーマに選んだのは、一見どこにでもあのような女性への暴力だった。見えない真実を求めて試行錯誤するアリスの姿を丁寧に描きつつも、最終弁論前日の場面で物語は幕を閉じる。まるで答えは読者ひとりひとりに委ねられているかのよう。

筑波大学 小川美登里

LE CHOIX GONCOURT  
DU JAPON



ゴンクール賞日本

主催・パートナー

## Organisation/Partenaires



Liberté  
Créativité  
Diversité



FRANCE TOSHO  
フランス図書

PERROTIN